

研究課題番号	1-2405
研究領域名	統合領域
研究課題名	SDGs達成への変革のためのシナジー強化とトレードオフ解消に関する研究
研究代表者名（所属機関名）	蟹江 憲史（慶應義塾大学）
研究実施期間	2024年度～2026年度
研究キーワード	シナジー、トレードオフ、事例研究、気候変動緩和、気候変動適応

【研究概要】

【問題】SDGs（持続可能な開発目標）は、未だ達成率が低く、変革のための行動と課題間のシナジー創出、トレードオフ解消が喫緊の課題である。

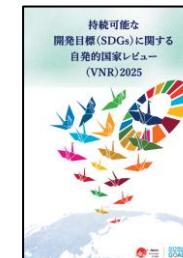
【目標】本研究は、環境政策にかかる課題を中心に、SDGsの目標やターゲット間のシナジー及びトレードオフを包括的に分析するとともに、具体的な事例によりこれを明らかにする。これにより、政策や戦略にシナジーとトレードオフが考慮され、省庁、自治体、企業等で本研究の成果が実装され、国際的に知見が活用されることを目標とする。

【研究成果】

（成果2）シナジー・トレードオフに関する先行研究レビューにより対応策に関するツール開発が効果的であるという方向性を明示

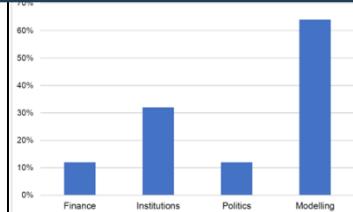
（成果1）SDGs達成状況の評価を日本政府の自主的国家報告（Voluntary National Review）を主導・実施

（成果3）シナジー・トレードオフの事例収集を開始（シナジー・トレードオフに関する優良事例収集ウェブサイトを公開）



日本版VNR

（成果6）社会的側面におけるシナジーとトレードオフの分析手法を体系的に整理・開発



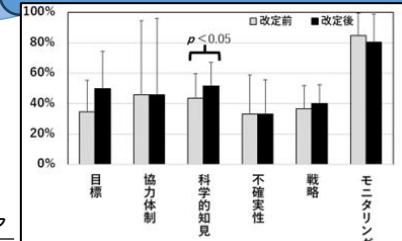
シナジー研究における各分野のカバー率

論文・国際報告書における貧困やジェンダーなど社会的側面のシナジーとトレードオフ分析手法をレビュー。定量的手法は政策評価や意思決定支援に活用され、定性的手法は複雑な社会要因把握に有効と整理。

（成果4）気候変動影響とSDGsとの関連を分析。
適応×社会変容性評価との関連を分析

右図：6構成要素別の計画改定前後のスコア

（成果5）国内外における気候変動適応策の整理



18自治体の計画を対象に地域気候変動適応計画の改定による内容の質向上を検証。6構成要素・複数指標で評価した結果、改定後は質向上の平均スコアが上昇。特に「目標」と「科学的知見」で改善が顕著。「科学的知見」は統計的有意差も示した。

【今後】事例研究の収集を加速し分析を進める。解決策やツールを開発し、成果をまとめていく。

【環境政策等への貢献（の見通し）】

- 日本のSDGs推進体制と国連プロセスの双方に持続的に関与。
- VNR報告書の編集を担うなど政策形成に直接貢献。シナジー強化の重要性や具体策を反映。
- 国内外の会議で成果を発信（国連未来サミット、国連の報告書等への知見提供等）
- 地方の気候変動適応計画改善や「ビヨンドSDGs官民会議」設立を通じ社会実装も推進。
- IPBES（生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム）等の国際報告書にも寄与。
- 今後も引き続きSDGsのシナジー可視化や変革のレバレッジ・ポイント提示により、環境政策の質向上と社会変革の国際的合意形成を牽引していく。